

どんな事業を行った？

教育関係

新たな教育共同利用拠点「食糧基地 北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同拠点」の認定

各国立大学の人的、物的資産の共同利用を促進し、質の高い教育を提供することを目的とし、文部科学省が推進する教育関係共同利用拠点制度について、平成27年7月、本学北方生物圏フィールド科学センターの「食糧基地 北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同拠点」が新たな拠点として認定されました。

本拠点は、臼尻水産実験所、忍路臨海実験所、七飯淡水実験所を一つの教育拠点とし、食糧基地である北海道の暖流系の海、寒流系の海及び河川、これら3つのフィールドにおける、地の利を活かした特色ある教育プログラムを提供し、水産科学分野における、世界的な課題解決に貢献する人材の育成を目的とします。

なお、本学における教育関係共同利用拠点は、本拠点を入れて全部で5拠点となっており、全国立大学で最多となっています。



忍路臨海実験所での実習風景

水産学部附属練習船「おしよる丸」 シップ・オブ・ザ・イヤー 2014 漁船・作業船部門賞を受賞

極域まで航行可能な耐氷構造、静粛性を考慮した電気推進システムと防振防音設計の高性能な調査船であることが評価され、受賞に至りました。

これらの性能によって、精密な音響データ取得や静かで揺れないキャンパスの実現が可能となりました。

※「シップ・オブ・ザ・イヤー」は日本船舶海洋工学会が主催する、技術的、芸術的に優れた船舶及び海洋構造物の建造促進を目的とした表彰制度です。



研究関係

北極域研究センターの創設

当センターは、北大の北極域研究に携わる研究者を、基礎自然科学から応用科学、人文社会科学まであらゆる分野から集約し、北極域の持続可能な活用と保存を目的として研究活動を行っています。

平成28年度からは、国立極地研究所及び海洋研究開発機構との連携により、文部科学大臣認定の北極域研究中心的拠点として、更なる期待が寄せられています。



フード&メディカルイノベーション (FMI) 国際拠点の始動

平成26年度末に完成したFMI国際拠点において、産学連携で取り組むセンター・オブ・イノベーション (COI) プログラム『食と健康の達人』拠点 (※) が本格的に始動しました。

※平成26年度の実績が認められ、平成27年度から正式にCOIへの昇格が認められました。



どんな事業を行った？

病院関係

平成28年4月、「がん遺伝子診断部」を設置 ～国立大学として初、がん遺伝子診断の専門部署～

「がん遺伝子診断部」は、国立大学法人としては初となるがん遺伝子診断の専門部署です。

網羅的ながん遺伝子検査（クラーク検査※やオンコプライム検査）を実施し、がん患者さんお一人お一人に最も適した治療薬の情報を提供します。

検査開始にあたって、平成27年度から院内各部署との連携確認やがん遺伝子検査に必要な規定の整備など様々な準備を進めてきました。

※クラーク検査・・・北海道大学病院内で迅速で、高精度な遺伝子解析を行う、北大独自の検査



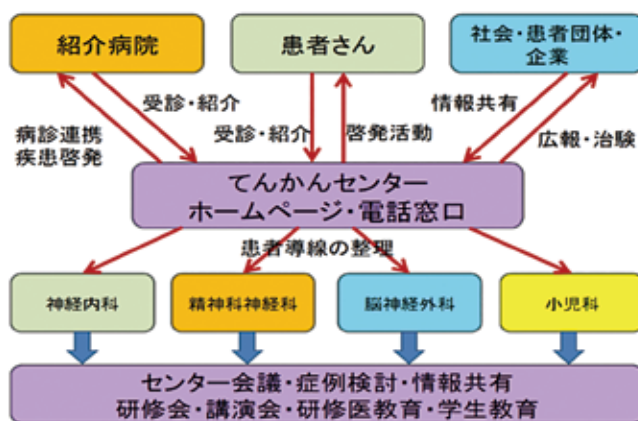
H28.3.2東京オフィスでの記者会見

「てんかんセンター」設立

平成27年8月、「てんかんセンター」が設立されました。

「てんかんセンター」は、てんかん性疾患を全年齢にわたり、系統的に診療・治療できる道内唯一の施設となっています。

また、北海道が推進している遠隔医療に対応するインフラ整備が完了しており、今後、地域医療へのさらなる貢献が期待されています。



てんかんセンターの業務

環境保全

第1回サステイナブルキャンパス賞（大学運営部門）受賞

本学は平成27年度、CAS Net-JAPAN（サステイナブルキャンパス推進協議会）が主催する表彰制度において、サステイナブルキャンパス賞（大学運営部門）を受賞しました。

この制度はサステイナブルキャンパス構築に係る優れた取組事例を表彰するもので、本学のサステイナブルキャンパス評価システム（ASSC, Assessment System for Sustainable Campus）を活用したPDCAサイクルの確立と学内コミュニケーションの活性化、特にASSCが海外の高等教育機関からも注目を受けている点が評価され、受賞に至りました。

